

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD) 2月3日(金曜)午後3時現在

1. USDJPY 来週の予想レンジ 75.60~76.50 中期の予想 75.00~77.00

1. 政府・日銀の介入点を探る展開が続きそう。
2. USDJPY ストレートの動きより、円クロスでの円買いが USDJPY 相場をリードする可能性が高い。
3. 最近の傾向から大相場は期待薄。

USDJPY・8時間チャート

USDJPY・Daily チャート

USDJPY・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタ ンス 1.	レジスタ ンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
USDJPY・8時間チャート	76.55	76.68	75.51	37.32	27.53	↑	76.02	75.51	76.55	76.88
USDJPY・Dailyチャート	76.88	77.82	75.60	11.82	20.84	↓	75.60	75.56	76.88	77.41
USDJPY・Weeklyチャート	77.50	80.49	73.39	17.30	26.88	↓	75.56	73.39	77.50	80.49

今週は、週初め1月30日の76.77を高値に2月1日には76.02まで下落、下値を試す動きが続いた。前週は日本貿易赤字化を危惧したドル買いや、M&A絡みの円売りに78円台まで上昇したが、上値トライは失敗。今週はその反動に、週初の高値76.77円を高値に最近のレンジ下限76.50を割り込み売りが続き、クロスでも円の買い戻しが見られ、76.00以下のストップを試す動きが見られた。政府・日銀の円売り介入警戒が指摘されながらも、昨年12月27日に米財務省が議会へ報告した、米外国為替報告書で、日本の円売り単独介入を支持しなかったことが公表されたことで、介入警戒感が薄らいだこともUSDJPYの上値を重くした。日本発の材料も乏しく、ユーロ圏の材料相場に反応しやすい流れが続いているが、何れも動きは鈍く、EU財務相会合の合意にも、ギリシャ債務削減協議の行方にも、直接的な動きは極めて少なく、いつもながらのレンジ相場が続いた。

来週は、本日2月3日の米雇用統計の結果と、2月6日のEU財務相会合を前にギリシャ債務交換協議の合意の有無と、その内容によって大きく相場見通しも変わってくる。経済指標では2月8日の日本の貿易収支が注目され、市場予想では5851億円のマイナスが市場のコンセンサスで、マイナス幅が拡大するようならば、円売りの材料にされやすい。USDJPY ストレートの動きは引き続き緩慢と思われるが、EURJPY や AUDJPY などの円クロスが USDJPY 相場に影響を与える可能性は高く、ギリシャ債務交換協議の合意は2月6日のEU財務相会合までとの観測もあり、仮に、結果を市場が評価すればEURUSDは上昇し、EURJPYの上昇からUSDJPYは上値を試す可能性が高まる。介入後の最安値76.55は1月17日に既にブレイク、介入前となる10月31日の歴史的な安値75.56を目の前に控え、どこまで円高が進むかを試す週になりそうである。

テクニカル

8時間チャートは、EMA76.55で、この水準を上限に下降トレンドが続いている。ストキャスティクスは買い変化し、ベースは売られ過ぎゾーンにあり、短期的に上昇する可能性も見られる。下値のポイントは76.02、75.51、上値のポイントは76.55、76.88。
 Dailyチャートは、EMA76.88で、この水準を割り込んでから下降トレンドが続いている。ストキャスティクスは売りを継続し、ベースは売られ過ぎゾーンにあり、今後数日間下がることできないと、上昇する可能性もある。下値のポイントは75.60、75.56、上値のポイントは76.88。
 Weeklyチャートは、EMA77.50で、この水準を上限に下降トレンドが続いている。75ミドルをベースに、上値が徐々に切り下がるペナントを形成している。ストキャスティクスは売りを継続、ベースは売られ過ぎゾーンにある。下値のポイントは75.56、73.39、上値のポイントは77.50、80.49。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY, 2. EURUSD, 3. GBPUSD) 2月3日(金曜)午後3時現在

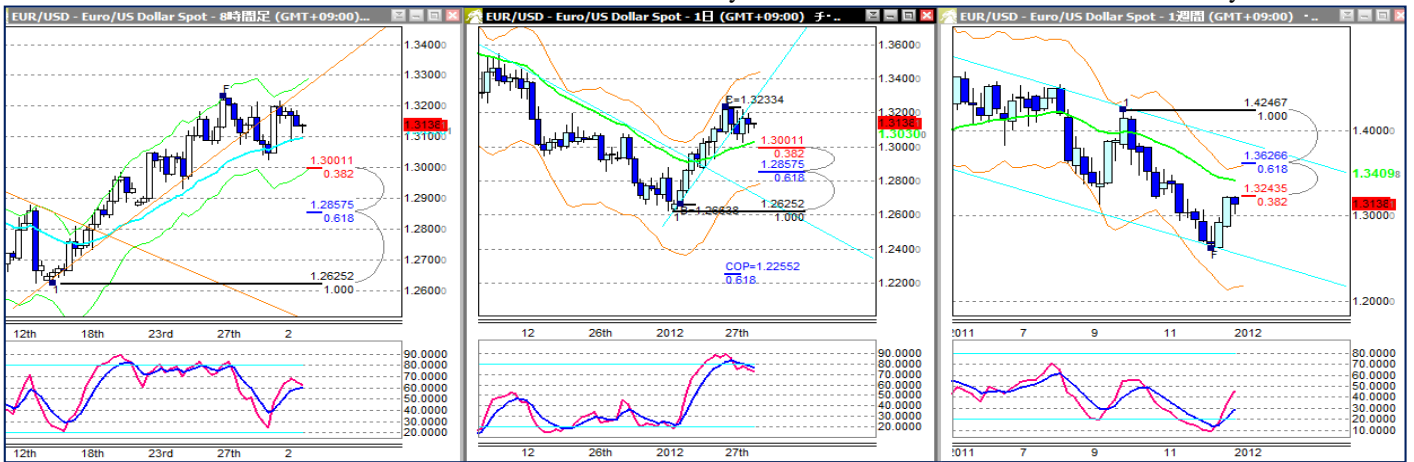
2. EURUSD 来週の予想レンジ 1.3000~1.3250 中期予想レンジ 1.2800~1.3400

1. ギリシャ債務交換協議の合意の有無と、その内容次第で、結果がはっきりするまでは、1.3000~1.3250 のレンジ内を予想。
2. ECB 理事会では政策金利の据え置きが予想されるが、相場にはすでに織り込み済み。ドラギ ECB 総裁の記者会見を注目。
3. EU 首脳会議からすでに 1 週間過ぎて、ギリシャの悪材料もやや織り込み済み

EURUSD・8時間チャート

EURUSD・Daily チャート

EURUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタ ンス 1.	レジスタ ンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
EURUSD・8時間チャート	1.3098	1.3275	1.2979	62.64	60.89	↑	1.3001	1.2858	1.3233	1.3275
EURUSD・Dailyチャート	1.3030	1.3430	1.2774	72.39	76.02	↓	1.3001	1.2858	1.3233	1.3430
EURUSD・Weeklyチャート	1.3410	1.3577	1.2163	45.31	29.39	↑	1.2540	1.2405	1.3627	1.4247

今週は、週初め1月30日につけた1.3227を高値に、2月1日には安値の1.3025まで下落、そのレンジ内で取引が続いている。上値のポイント1.3250を試すことはできず、下値のポイント1.3000を割り込むこともできず、日中ベースでは1.30台を何度もものぞきながら終値ベースでは30日を除き1.31ミドルで終了している。経済指標では、ユーロ圏の業況感指数・消費者信頼感指数のマイナス幅が縮小、独・ユーロ圏の製造業PMIが比較的強く、EUR買いの流れとなったが、独CPIは前年比2.3%でやや低下、ユーロ圏CPIは2.7%と予想通りの結果で、相場への影響は見られなかった。前週の金曜日にはEU首脳会議への期待感と債券相場の上昇に、フィッチによるユーロ圏5カ国の格下げに反応もなく上昇。30日のEU首脳会議では、財政赤字の抑制を憲法で義務化させた財政規律強化と、欧州安定化メカニズム(ESM)の詳細で合意したが、ギリシャ債務交換協議が合意に至らず、売り買いが交錯。ユーロ圏の債券、株式市場は安定してきたが、EURUSDは1.30台~1.3250のレンジ内で底堅い展開が続いた。

来週は、2月9日の欧州中銀(ECB)理事会があり、市場では政策金利1.0%の据え置きを予想しており、その後のドラギECB総裁の記者会見を含め非常に注目される。ギリシャ政府と民間債券団体との債務交換協議の合意、ギリシャ第2次金融支援の実施合意の有無と、その内容が今週のメインイベントとなっている。債券交換協議は合意に近いと言われながら合意に至らず、2月6日のEU財務相会合が期限との観測も多い。関係者の発言で短期的に相場を上下させることはできるが、結果を見るまでは方向性は定まらず、1.3000~1.3250レンジの上限を上抜けることは難しそうである。EU首脳会議からすでに1週間が過ぎ、ある程度のマイナス材料は織り込み済みで、市場の事前予想や今までの報道と大きく食い違わない限り、最終合意が発表されると、悪材料がすでに織り込み済みになりかねない。

テクニカル

8時間チャートは、EMA1.3098で、この線を下限に上昇トレンドが続き、下値をトライしている。ストキャスティクスは買いから売りへ変化の兆しがあり、ベースはニュートラルからやや買われ過ぎゾーン。下値のポイント1.3001、1.2858は、上値のポイントは1.3233、1.3430。Dailyチャートは、EMA1.3030で、この線を下限に買いの流れが続いている。ストキャスティクスはハイペースで売りへ変化し、売りへ転換する可能性も出ている。下値のポイントは1.3001、1.2858、上値のポイントは1.3233、1.3430。Weeklyチャートは、EMA1.3410で、これを上限に下降トレンドに入っている。ストキャスティクスはハイペースで買いへ変化し、中期的な変化の可能性も出ている。下値のポイントは1.2540、1.2405、上値のポイントは1.3627、1.4247。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY, 2. EURUSD, 3. GBPUSD) 2月3日(金曜)午後3時現在

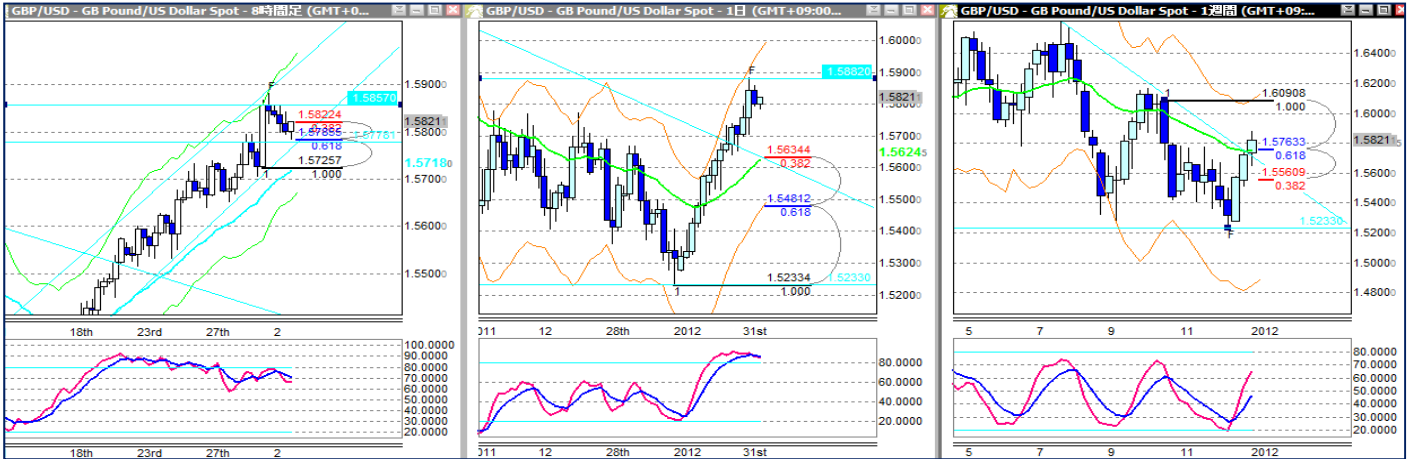
3. GBPUSD 来週の予想レンジ 1.5700~1.6000 中期予想レンジ 1.5600~1.6100

1. 2月9日のイングランド銀行金融政策委員会では、資産買入枠の750億ポンドの拡大が予想されている。
2. EURGBPは0.83~0.84のレンジの下限にあり、動きを注目。
3. ECB理事会後の、ドラギECB総裁発言に注目。

GBPUSD・8時間チャート

GBPUSD・Daily チャート

GBPUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平均線	DiNapoliオシレーター・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
GBPUSD・8時間チャート	1.5718	1.5950	1.5636	66.88	70.57	↑	1.5790	1.5726	1.5857	1.5950
GBPUSD・Dailyチャート	1.5624	1.5970	1.5465	84.50	86.29	↓	1.5634	1.5481	1.5857	1.5970
GBPUSD・Weeklyチャート	1.5757	1.6092	1.4846	65.28	46.30	↑	1.5561	1.5233	1.6091	1.6617

今週は、月初め1月30日の1.5653を底値に、1.5770~75の上値のポイントをブレイクし、2月1日には1.5882まで上昇、11月18日の高値1.5887に迫る力強い上昇相場となった。経済指標ではホームトラック住宅調査や、GfK消費者信頼感指数のマイナス幅が縮小、製造業PMIは予想と前回を大幅に上回り、債券買いに拍車をかけていた。Commonwealth通貨の上昇も追い風となり、ポンドの上昇幅は大きく、英中銀に金融緩和を求める声は発言が多いなか、EURGBPは0.84を天井に0.84割れを試すなどGBP買いが強く、EURUSDのレンジ相場とは別な動きとなった。しかし、期待されたギリシャ債務交換協議の合意もなく、3日の米雇用統計の発表を控え、ポジション調整の売りに1.58近くまで値を下げている。

来週は、本日2月3日の米雇用統計の結果と、2月6日のEU財務相会合を前にギリシャ債務交換協議の合意と、その内容によって大きく相場見通しも変わってくる。9日に英中銀(BOE)の金融政策委員会で金融政策が発表され、政策金利0.5%の据え置きが予想されているが、ポーゼン英中銀政策委員は、資産買入枠を750億ポンド拡大する議論があると発言、市場では資産買入枠を2750億ポンドから引き上げられることを予想し、徐々に相場に織り込み始めている。また、最近では若干流れが変わってきたとはいえ、EURUSD相場から受ける影響は大きく、ギリシャ債務交換協議はもちろん、欧州債券市場の動向に注意。EURGBPは暫く0.83~0.84のレンジで推移し、現在その下限近くにあり、EURGBPの買いの流れに、GBPUSDの上値も抑えられる可能性もある。

テクニカル

8時間チャートは、EMA1.5718で、この線に沿って上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスはトレンドのある上昇のためか判断することはできず、ハイベースで推移している。下値のポイントは1.5857、1.5950、上値のポイントは1.5790、1.5726。

Dailyチャートは、EMA1.5624で、この線に沿って上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスは売りへ変化し、ハイベースで推移、売りへ変化する可能性が出ている。下値のポイントは1.5634、1.5481、上値のポイントは1.5857、1.5970。

Weeklyチャートは、EMA1.5757で、この線を上抜け買いの流れに入り、下降トレンドラインを上抜け買いの流れが続く可能性が出ている。ストキャスティクスは買いを継続、ベースはニュートラル。

USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス。為替レート・金・原油価格は GFT 社の取引レート。
本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com、ロイター社、ブルームバーグ社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com、ブルームバーグ社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたしますが、損失ももたします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011